

各種ニーズ調査の項目とねらい

1. 市民アンケート	1
2. バス乗降調査	6
3. バス利用者アンケート（路線バス）	7
4. バス利用者アンケート（こまくる）	10
5. 高速バス利用者アンケート	14
6-1. 企業アンケート	17
6-2. 従業員アンケート	18

1. 市民アンケート

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■回答者の属性について

新規	利用	項目案	回答方式	ねらい
	計編	1 性別 【1. 男性 2. 女性 3. その他】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計編	2 評価指標 年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85歳以上】	選択	
	計編	3 職業 【1. 勤め人（会社員、公務員、会社役員等） 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生 6. 無職 7. その他（ ）】	選択・記述	
	計編	4 お住まいの地区（校区） 【1. 小牧 2. 小牧南 3. 味岡 4. 北里 5. 一色 6. 小牧原 7. 桃ヶ丘 8. 光ヶ丘 9. 村中 10. 三ツ淵 11. 篠岡 12. 米野 13. 小木 14. 本庄 15. 陶 16. 大城 ※わからない場合町名 （ ）】	選択・記述	
新	計編	5 普段の外出の頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度】	選択	免許返納者の今後の増加傾向及び返納後の公共交通の利用希望を把握し、施策の参考とする。
	計編	6 自動車の利用頻度（送迎も含む） 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～4回 3. 週に1回 4. 2週間に1回 5. 月に1回 6. 年に数回 7. 利用していない】	選択	
新	計編	7 自動車運転免許の有無と運転状況 【1. 所有して運転している 2. 所有しているが、運転していない 3. 返納したため運転していない 4. 元々所有していない】	選択	
	計編	8 （※運転免許を所有または返納した方のみ） 何歳くらいで免許を返納したいか（または返納したか） 【1. 60歳頃 2. 65歳頃 3. 70歳頃 4. 75歳頃 5. 80歳頃 6. 85歳頃 7. 90歳頃 8. 運転免許証を返納するつもりがない】	選択	
新	計編	9 （※運転免許を所有または返納した方のみ） 免許返納後に利用したい（または利用している）移動手段 【1. 鉄道 2. 路線バス 3. こまくる 4. タクシー 5. 家族・知人の送迎 6. 自転車 7. 徒歩 8. その他 （ ）】	選択・記述 （全て）	
	計編	10 評価指標 鉄道やバスを不自由なく乗り降りすることができるか。 【1. ひとりで乗降できる 2. 人の介助があれば乗降できる 3. 車イスのままであれば乗降できる 4. 鉄道やバスの利用は難しい】	選択	

■公共交通の認知度について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	11 小牧市内を運行している公共交通機関について知っていること 【1. こまくるが走っていること 2. その他バス（ピーチバス、桃花台バス、名鉄バス、とよやまタウンバス、犬山市コミュニティバス等）が走っていること 3. 最寄りバス停の位置 4. 最寄りバス停から行くことのできる施設 5. 自宅近くを走るバスのダイヤ 6. 自宅近くを走るバスのルート 7. 自宅近くを走るバスの運賃】	選択 （全て）	小牧市内の公共交通機関についての認知度を調査することで、市民に十分な周知が図れているか確認する。

■鉄道の利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	12 評価指標 鉄道の利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度 7. 利用していない】	選択	鉄道の利用状況を把握する。 他の設問での回答結果について、鉄道の利用状況別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計	13 (※鉄道利用者(12で「1～6」を選んだ方)のみ) 評価指標 主な利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. その他()】	選択・記述	
新	計	14 (※鉄道利用者(12で「1～6」を選んだ方)のみ) 最もよく利用する路線 【1. 名鉄小牧線 2. 名鉄犬山線 3. JR中央線 4. その他()】	選択・記述	
	計	15 鉄道の項目別満足度(項目毎に評価) 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 鉄道の項目別重要度(項目毎に評価、総合的な満足度は除く) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ① 運行本数 ② 自宅から駅、駅から目的地の移動 ③ 始発の時刻 ④ 終発の時刻 ⑤ 運賃 ⑥ 乗継ぎ利便性 ⑦ 混雑状況 ⑧ 駅の駐車場 ⑨ 駅の駐輪場 ⑩ 駅周辺の魅力 ⑪ 運行情報 ⑫ 総合的な満足度	選択 (項目別)	鉄道のサービス項目別の満足度及び重要度を把握し、改善策を検討する参考とする。

■こまくるの利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	16 評価指標 こまくるの利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度 7. 利用していない】	選択	こまくるの利用状況を把握する。 他の設問での回答結果について、こまき巡回バスの利用状況別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計編	17 (※こまくる利用者(16で「1～6」を選んだ方)のみ) 評価指標 主な利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. その他()】	選択・記述	
	計編	18 こまくるの項目別満足度(項目毎に評価) 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 こまくるの項目別重要度(項目毎に評価、総合的な満足度は除く) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ① 運行本数 ② 自宅からバス停、バス停から目的地の移動 ③ 始発の時刻 ④ 終発の時刻 ⑤ 運賃 ⑥ 乗継ぎ利便性 ⑦ 混雑状況 ⑧ バス停の待合環境 ⑨ 定時性(時刻表通りの運行) ⑩ 運行経路(行きたい方向とバスルートが合っているか) ⑪ 運行情報(HPや時刻表)のわかりやすさ ⑫ バスロケーションシステム ⑬ 総合的な満足度	選択	こまくるのサービス項目別の満足度及び重要度を把握し、改善策を検討する参考とする。

■路線バスの利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	19 評価指標 路線バス（ピーチバス・桃花台バス・名鉄バス等）の利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度 7. 利用していない】	選択	路線バスの利用状況を把握する。 他の設問での回答結果について、路線バスの利用状況別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計	20 （※路線バス利用者（19で「1～6」を選んだ方）のみ） 評価指標 主な利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. その他（ ）】	選択・記述	
新	計	21 （※路線バス利用者（19で「1～6」を選んだ方）のみ） 最もよく利用する路線 【1. ピーチバス 2. 桃花台バス 3. 名鉄バス 4. 近距離高速バス 5. その他（ ）】	選択・記述	
	計	22 路線バスの項目別満足度（項目毎に評価） 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 路線バスの項目別重要度（項目毎に評価、総合的な満足度は除く） 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ① 運行本数 ② 自宅からバス停、バス停から目的地の移動 ③ 始発の時刻 ④ 終発の時刻 ⑤ 運賃 ⑥ 乗継ぎ利便性 ⑦ 混雑状況 ⑧ バス停の待合環境 ⑨ 定時性（時刻表通りの運行） ⑩ 運行経路（行きたい方向とバスルートの整合） ⑪ 運行情報（HPや時刻表）のわかりやすさ ⑫ 総合的な満足度	選択	路線バスのサービス項目別の満足度及び重要度を把握し、改善策を検討する参考とする。

■高速バスの利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
新	計	23 「中央道桃花台バス停」があることを知っているか、利用したことがあるか 【1. 知っていて利用したことがある 2. 知っているが利用したことはない 3. 知らない】	選択	中央道桃花台バス停の認知度とサービス項目別の満足度及び重要度を把握し、改善策を検討する参考とする。
新	計	24 中央道桃花台バス停の項目別満足度（項目毎に評価） 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 中央道桃花台バス停の項目別重要度（項目毎に評価、総合的な満足度は除く） 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ① 運行本数 ② 自宅からバス停、バス停から目的地の移動 ③ 始発の時刻 ④ 終発の時刻 ⑤ 運賃 ⑥ 乗継ぎ利便性 ⑦ 予約のしやすさ ⑧ バス停の待合環境 ⑨ 運行情報（HPや時刻表）のわかりやすさ ⑩ 定時性（時刻表通りの運行） ⑪ バス停前ロータリー ⑫ 駐車場 ⑬ 総合的な満足度	選択	

■タクシーの利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	25 評価指標タクシーの利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度 7. 利用していない】	選択	タクシーの利用状況を把握する。 他の設問での回答結果について、タクシーの利用状況別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計	26 (※タクシー利用者(25で「1～6」を選んだ方)のみ) 主な利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. その他()】	選択・記述	
	計	27 タクシーの項目別満足度(項目毎に評価) 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 タクシーの項目別重要度(項目毎に評価、総合的な満足度は除く) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ① 運賃 ② 予約方法 ③ 駅でのつかまりやすさ ④ 運行情報 ⑤ ドライバーの対応 ⑥ 予約のしやすさ ⑦ 総合的な満足度	選択	タクシーのサービス項目別の満足度及び重要度を把握し、改善策を検討する参考とする。

■こまくるの今後の方向性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	28 令和2年12月に実施した再編により、長大路線を廃止したことで、各路線の運行時間が短くなり、定時性も向上した。しかし、目的地によっては乗り継ぎが必要になった。現在の運行についてどう思うか。 【1. 所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設(小牧駅、市民病院等)へ乗り継ぎなしで行きたい 2. 乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい】	選択	路線再編の方向性検討の参考とする。
	計編	29 こまくるを利用して行きたい場所や施設はどこか。 【1. MEGA ドン・キホーテ UNY 小牧店 2. イオン小牧店 3. ラピオ 4. ピアーレ 桃花台 5. 清水屋小牧店 6. 小牧パワーズ 7. 小牧市民病院 8. 小牧第一病院 9. 小牧ようてい記念病院 10. 小牧市役所 11. 鉄道駅() 12. その他()】	選択・記述	ルート、バス停位置検討の参考とする。
	計編	30 こまくるの運行のための小牧市の負担額は、令和4年度は3億4千万円となっているが、今後どのように考えるべきか。 【1. 市の負担額は下げる必要がある 2. 市の負担額は現状維持する必要がある 3. その他()】	選択・記述	今後の費用負担のあり方検討の参考とする。
	計編	31 こまくるの効率性を高めるために、どのような施策を実施すべきか。 【1. 利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る 2. 利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る 3. 利用者の少ないバス停を見直し、運行ルートの短縮を図る 4. その他()】	選択・記述	こまくるの効率性向上(需要に応じたサービス水準設定)に向けた検討の参考とする。
	計編	32 65歳以上の高齢者は、こまくるの運賃が無料となっているが、無料対象年齢は何歳からが妥当か。 【1. 60歳 2. 65歳 3. 70歳 4. 75歳 5. 80歳 6. 85歳】	選択	運賃制度の改定の検討の参考とする。

■小牧市の公共交通の維持・活性化について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
新	計	33 名鉄バス間内岩倉線は、これまで様々な利用促進策を講じてきたが、利用者数が伸び悩んでいる。どのように対処するべきだと思うか。 【1. 現在の運行水準を維持するべき 2. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 3. 路線を廃止し、他のサービスを導入するべき 4. その他()】	選択・記述	名鉄バス間内岩倉線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。

新	計	34	<p>ピーチバスは、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持するべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	ピーチバスの維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	35	<p>近距離高速バス桃花台線は、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持するべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	近距離高速バス桃花台線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計編	36	<p>近年、新技術を利用した自動運転バスやAI デマンド交通、さらにシェアサイクル、シェア電動キックボード、MaaS等のモビリティサービスが普及してきている。小牧市での導入についてどう思うか。（項目毎に評価）</p> <p>【1. 導入されたら利用する 2. 導入されても利用しない】</p> <p>①自動運転 ②AI デマンド交通 ③シェアサイクル ④シェア電動キックボード ⑤MaaS</p>	選択	新モビリティ（自動運転、デマンド、シェアサービス等）の利用意向を確認し、施策展開の参考とする。

■自由意見

新規	利用	項目案		回答方式	調査のねらい
	計編	37	小牧市内の公共交通の利便性を高めるアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。

2. バス乗降調査（OD調査）

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	1 性別 【1. 男性 2. 女性】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計	2 居住地 【1. 小牧市内 2. 小牧市外】	選択	
	計	3 年齢 【1. ~29歳 2. 30~49歳 3. 50~64歳 4. 65~74歳 5. 75歳~】	選択	
	計	4 利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. その他】	選択	バスの利用状況を把握し、路線再編に活用する。
	計	5 利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に数日 3. 月に数日程度 4. 年に数日程度】	選択	
	計	6 乗り継ぎ状況 【1. 乗り継ぎしない 2. 名鉄小牧線 3. 名鉄バス 4. ピーチバス 5. 桃花台バス 6. こまくる 7. 高速バス 8. 周辺市町コミバス 9. タクシー 10. その他】	選択	
	計	7 往復利用状況 【1. 往復利用 2. 片道利用】	選択	
	計	8 最終目的地 【1. 小牧市内 2. 小牧市外】	選択	
	計	9 利用路線と利用便（調査員の記録） 【（ ）コース（ ）便】	調査員記入	利用時間帯、乗降バス停を把握し、バス停間OD等利用実態を検証する。
	計	10 乗降バス停 【乗車：（ ）バス停 降車：（ ）バス停】	調査員記入	

3. バス利用者アンケート（路線バス）

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■回答者の属性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	1 性別 【1. 男性 2. 女性 3. その他】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計編	2 年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85歳以上】	選択	
	計編	3 職業 【1. 勤め人（会社員、公務員、会社役員等） 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生 6. 無職 7. その他（ ）】	選択・記述	
	計編	4 お住まいの地区（校区 or 6地区） <市内> 【1. 小牧 2. 小牧南 3. 味岡 4. 北里 5. 一色 6. 小牧原 7. 桃ヶ丘 8. 光ヶ丘 9. 村中 10. 三ツ淵 11. 篠岡 12. 米野 13. 小木 14. 本庄 15. 陶 16. 大城 17. わからない場合町名 （ ）】 <市外> 【18. 犬山市 19. 春日井市 20. 岩倉市 21. 豊山町 22. 名古屋市 23. その他（ ）】	選択・記述	
新	計編	5 普段の外出の頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度】	選択	
新	計編	6 自家用車の利用頻度（送迎も含む） 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～4回 3. 週に1回 4. 2週間に1回 5. 月に1回 6. 年に数回 7. 利用していない】	選択	自家用車利用への依存度を把握する。 不満事項の改善による利用頻度の増加の可能性を分析する際の参考データとする。

■当日のバス利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	7 このアンケートを、どの交通機関で受け取ったか 【高速バス： 1. 近距離高速バス名古屋桃花台線 名鉄バス： 2. 春日井市内線（小牧駅 - JR春日井駅） 3. 小牧・勝川線（小牧駅 - 勝川駅） 4. 岩倉線（小牧駅-岩倉駅、桜井経由） 5. 岩倉線（小牧駅-岩倉駅、市役所経由） 6. 岩倉線（小牧駅-岩倉駅、市民病院経由） 7. 岩倉線（間内駅 - 岩倉駅） 8. 春日井桃花台線（桃花台 - JR春日井駅） 9. 桃花台線（桃花台-高蔵寺駅） あおい交通ピーチバス： 10. 桃花台循環コース あおい交通桃花台バス： 11. 朝コース 12. 昼コース 13. 夜コース】	選択・記述	バスの利用状況を把握する。 満足度と利用状況のクロス集計により、路線別や利用状況別の満足度や改善事項を分析する。
	計	8 バスに乗車した日時 【11月（ ）日 午前・午後（ ）時頃】	記述	
	計	9 乗車したバス停・降車したバス停 【乗車：（ ）バス停 降車：（ ）バス停】	記述	

計	10	最終目的地の施設名または市町村名 【1. 小牧市内の施設名 () 2. 犬山市 3. 春日井市 4. 岩倉市 5. 豊山町 6. 名古屋市 7. () 県 () 市・町・村】	選択・記述
計	11	利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. 帰宅 8. その他 ()】	選択・記述
計	12	評価指標乗り継ぎ 【1. 乗り継ぎしない 2. 名鉄小牧線 3. JR 中央本線 4. ピーチバス 5. 桃花台バス 6. 名鉄バス () 線 7. 近距離高速バス 8. こまくる () コース 9. とよやまタウンバス 10. 犬山市コミュニティバス 11. かすがいシティバス 12. その他 ()】	選択・記述
計	13	利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に数日 3. 月に数日程度 4. 年に数日程度】	選択
計	14	「行き」「帰り」と往復で同じ交通機関を利用したか。 【1. 行きのみ利用 2. 帰りのみ利用 3. 往復で利用した】	選択
計	15	(※片道利用者(14で「1～2」を選んだ方)のみ) 「行き」または「帰り」のみ利用した場合、代替りの交通手段について 【1. 自家用車(送迎) 2. タクシー 3. 名鉄小牧線 4. ピーチバス 5. 桃花台バス 6. 名鉄バス () 線 7. 近距離高速バス 8. こまくる () コース 9. とよやまタウンバス 10. 犬山市コミュニティバス 11. 徒歩 12. その他 ()】	選択・記述

■バスの満足度・改善事項について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい	
	計	16	バスサービスや乗り継ぎに関する満足度(項目毎に評価) 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 バスサービスや乗り継ぎに関する項目別重要度(項目毎に評価、総合的な満足度は除く) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ①運行本数 ②運行経路(行きたい方向とバスルートが合っているか) ③自宅からバス停までの距離 ④降車バス停から目的地・施設までの距離 ⑤始発時刻 ⑥終発時刻 ⑦目的地までの所要時間 ⑧定時性(時刻表どおりの発着) ⑨バス停での行き先案内や時刻表のわかりやすさ ⑩バス停の待合環境(屋根やベンチの設置状況) ⑪バス停周辺の施設整備(駐輪場など) ⑫車内の混雑状況 ⑬バス運行情報(HPや時刻表)のわかりやすさ ⑭バスの運賃 ⑮運転手の対応 ⑯運転の安全性 ⑰乗り継ぎの際の待ち時間 ⑱乗り継ぎの情報や乗り継ぎ案内のわかりやすさ ⑲総合的な満足度	選択	バスに関する項目別満足度及び重要度を把握する。 路線別や利用状況別の分析により、属性別の改善すべき事項を抽出する。 回答結果を参考に改善策を検討する。

■こまくるの今後の方向性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	17 令和2年12月に実施した再編により、長大路線を廃止したことで、各路線の運行時間が短くなり、定時性も向上した。しかし、目的地によっては乗り継ぎが必要になった。現在の運行についてどう思うか。 【1. 所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい 2. 乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい】	選択	路線再編の方向性検討の参考とする。
	計編	18 こまくるを利用して行きたい場所や施設はどこか。 【1. MEGA ドン・キホーテ UNY 小牧店 2. イオン小牧店 3. ラピオ 4. ピアーレ桃花台 5. 清水屋小牧店 6. 小牧パワーズ 7. 小牧市民病院 8. 小牧第一病院 9. 小牧ようてい記念病院 10. 小牧市役所 11. 鉄道駅（ ） 12. その他（ ）】	選択・記述	ルート、バス停位置検討の参考とする。
	計編	19 こまくるの運行のための小牧市の負担額は、令和4年度は3億4千万円となっているが、今後どのように考えるべきか。 【1. 市の負担額は下げる必要がある 2. 市の負担額は現状維持する必要がある 3. その他（ ）】	選択・記述	今後の費用負担のあり方検討の参考とする。
	計編	20 こまくるの効率性を高めるために、どのような施策を実施すべきか。 【1. 利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る 2. 利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る 3. 利用者の少ないバス停を見直し、運行ルートの短縮を図る 4. その他（ ）】	選択・記述	こまくるの効率性向上（需要に応じたサービス水準設定）に向けた検討の参考とする。
	計編	21 65歳以上の高齢者は、こまくるの運賃が無料となっているが、無料対象年齢は何歳からが妥当か。 【1. 60歳 2. 65歳 3. 70歳 4. 75歳 5. 80歳 6. 85歳】	選択	運賃制度の改定の検討の参考とする。

■小牧市の公共交通の維持・活性化について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
新	計	22 名鉄バス間内岩倉線は、これまで様々な利用促進策を講じてきたが、利用者数が伸び悩んでいる。どのように対処するべきだと思うか。 【1. 現在の運行水準を維持するべき 2. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 3. 路線を廃止し、他のサービスを導入するべき 4. その他（ ）】	選択・記述	名鉄バス間内岩倉線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	23 ピーチバスは、近年、運行本数を減便している。どのように対処するべきだと思うか。 【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持するべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】	選択・記述	ピーチバスの維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	24 近距離高速バス桃花台線は、近年、運行本数を減便している。どのように対処するべきだと思うか。 【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持するべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】	選択・記述	近距離高速バス桃花台線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計編	25 近年、新技術を利用した自動運転バスやAI デマンド交通、さらにシェアサイクル、シェア電動キックボード、MaaS等のモビリティサービスが普及してきている。小牧市での導入についてどう思うか。（項目毎に評価） 【1. 導入されたら利用する 2. 導入されても利用しない】 ①自動運転 ②AI デマンド交通 ③シェアサイクル ④シェア電動キックボード ⑤MaaS	選択	新モビリティ（自動運転、デマンド、シェアサービス等）の利用意向を確認し、施策展開の参考とする。

■自由意見

新規	利用	項目案		回答方式	調査のねらい
	計編	26	小牧市内の公共交通の利便性を高めるアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。

4. バス利用者アンケート（こまくる）

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■回答者の属性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	1 性別 【1. 男性 2. 女性 3. その他】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計編	2 年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85歳以上】	選択	
	計編	3 職業 【1. 勤め人（会社員、公務員、会社役員等） 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生 6. 無職 7. その他（ ）】	選択・記述	
	計編	4 お住まいの地区（校区 or 6地区） <市内> 【1. 小牧 2. 小牧南 3. 味岡 4. 北里 5. 一色 6. 小牧原 7. 桃ヶ丘 8. 光ヶ丘 9. 村中 10. 三ツ淵 11. 篠岡 12. 米野 13. 小木 14. 本庄 15. 陶 16. 大城 17. わからない場合町名 （ ）】 <市外> 【18. 犬山市 19. 春日井市 20. 岩倉市 21. 豊山町 22. 名古屋市 23. その他（ ）】	選択・記述	
新	計編	5 普段の外出の頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度】	選択	
新	計編	6 自家用車の利用頻度（送迎も含む） 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～4回 3. 週に1回 4. 2週間に1回 5. 月に1回 6. 年に数回 7. 利用していない】	選択	

■当日のこまくる利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	7 このアンケートを、どの路線で受け取ったか 【1. 小牧駅市役所線 2. 河内屋線 3. 藤島線 4. 市之久田線 5. 小牧原線 6. 岩崎線 7. 桃花台線 8. 味岡桃花台線 9. 文津線 10. 野口大山線 11. 舟津線 12. 三ツ淵北線 13. 村中線 14. 間々原線 15. 春日寺線 16. 多気線 17. 田県線 18. 久保一色線 19. 岩崎原線 20. 篠岡光ヶ丘線 21. 城山大草線 22. 池之内上末線 23. 高根線】	選択・記述	こまくるの利用状況を把握する。 満足度と利用状況のクロス集計により、路線別や利用状況別の満足度や改善事項を分析する。
	計編	8 こまくるに乗車した日時 【11月（ ）日 午前・午後（ ）時頃】	記述	
	計編	9 乗車したバス停・降車したバス停 【乗車：（ ）バス停 降車：（ ）バス停】	記述	
	計編	10 最終目的地の施設名または市町村名 【1. 小牧市内の施設名（ ） 2. 犬山市 3. 春日井市 4. 岩倉市 5. 豊山町 6. 名古屋市 7. （ ）県（ ）市・町・村】	選択・記述	
	計編	11 利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. 帰宅 8. その他（ ）】	選択・記述	

計 編	12	評価指標乗り継ぎ 【1. 乗り継ぎしない 2. 名鉄小牧線 3. JR 中央本線 4. ピーチバス 5. 桃花台バス 6. 名鉄バス（ ）線 7. 近距離高速バス 8. こまくる（ ）コース 9. とよやまタウンバス 10. 犬山市コミュニティバス 11. かすがいシティバス 12. その他（ ）】	選択・記述
計 編	13	利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に数日 3. 月に数日程度 4. 年に数日程度】	選択
計 編	14	「行き」「帰り」と往復で同じ交通機関を利用したか。 【1. 行きのみ利用 2. 帰りのみ利用 3. 往復で利用した】	選択
計 編	15	(※片道利用者(14で「1～2」を選んだ方)のみ) 「行き」または「帰り」のみ利用した場合、代替りの交通手段について 【1. 自家用車(送迎) 2. タクシー 3. 名鉄小牧線 4. ピーチバス 5. 桃花台バス 6. 名鉄バス（ ）線 7. 近距離高速バス 8. こまくる（ ）コース 9. とよやまタウンバス 10. 犬山市コミュニティバス 11. 徒歩 12. その他（ ）】	選択・記述

■こまくるの満足度・改善事項について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計 編	16 バスサービスや乗り継ぎに関する満足度(項目毎に評価) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 バスサービスや乗り継ぎに関する重要度(項目毎に評価、総合的な満足度は除く) 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ①運行本数 ②運行経路(行きたい方向とバスルートが合っているか) ③自宅からバス停までの距離 ④降車バス停から目的地・施設までの距離 ⑤始発時刻 ⑥終発時刻 ⑦目的地までの所要時間 ⑧定時性(時刻表どおりの発着) ⑨バス停での行き先案内や時刻表のわかりやすさ ⑩バス停の待合環境(屋根やベンチの設置状況) ⑪バス停周辺の施設整備(駐輪場など) ⑫車内の混雑状況 ⑬バス運行情報(HPや時刻表)のわかりやすさ ⑭バスロケーションシステム ⑮バスの運賃 ⑯運転手の対応 ⑰運転の安全性 ⑱乗り継ぎの際の待ち時間 ⑲乗り継ぎの情報や乗り継ぎ案内のわかりやすさ ⑳総合的な満足度	選択	こまくるに関する項目別満足度及び重要度を把握する。 路線別や利用状況別の分析により、属性別の改善すべき事項を抽出する。 回答結果を参考に改善策を検討する。

■こまくるの今後の方向性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計 編	17 令和2年12月に実施した再編により、長大路線を廃止したことで、各路線の運行時間が短くなり、定時性も向上した。しかし、目的地によっては乗り継ぎが必要になった。現在の運行についてどう思うか。 【1. 所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設(小牧駅、市民病院等)へ乗り継ぎなしで行きたい 2. 乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい】	選択	路線再編の方向性検討の参考とする。
	計 編	18 こまくるを運行するための小牧市の負担額は、令和4年度は3億4千万円となっているが、今後どのように考えるべきか。 【1. 市の負担額は下げることがある 2. 市の負担額は現状維持することがある 3. その他()】	選択・記述	今後の費用負担のあり方検討の参考とする。

計編	19	こまくるの効率性を高めるために、どのような施策を実施すべきか。 【1. 利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る 2. 利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る 3. 利用者の少ないバス停を見直し、運行ルート短縮を図る 4. その他（ ）】	選択・記述	こまくるの効率性向上（需要に応じたサービス水準設定）に向けた検討の参考とする。
計編	20	65歳以上の高齢者は、こまくるの運賃が無料となっているが、無料対象年齢は何歳からが妥当か。 【1. 60歳 2. 65歳 3. 70歳 4. 75歳 5. 80歳 6. 85歳】	選択	運賃制度の改定（高齢者運賃のあり方）検討の参考とする。
計編	21	今後、こまくるのサービスを維持・拡充していく際に、重要だと思う役割・機能。 【1. 通勤・通学するための交通手段 2. 通院・買い物するための交通手段 3. 鉄道駅へ行くための交通手段 4. 市外の施設へ行くための交通手段 5. 市外から来訪する方にとっての交通手段 6. 観光をするときの交通手段 7. 自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段 8. 普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割 9. 存在自体が、まちの活性化や活力につながるという役割 10. 小牧市をアピールする資源となる役割】	選択（上位3つ）	こまくるのあり方や維持・拡充を検討する際の参考とする。

■こまくるのサービスについて

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	22 こまくるの運転手の接遇・運転の評価（項目毎に評価） 【1. 非常によい 2. よい 3. 普通 4. 悪い 5. 非常に悪い】 ①あいさつ ②言葉遣い ③身だしなみ ④運転の安全性	選択・記述	こまくるの運行サービスの改善検討の参考とする。
	計編	23 こまくるの運転手に対して特に望むもの。 【1. あいさつ 2. 言葉遣い 3. 身だしなみ 4. 運転の安全性 5. その他（ ）】	選択・記述	こまくるの運行サービスの改善検討の参考とする。
	計編	24 こまくるでは、パソコンやスマートフォンなどで乗り換え案内サービスを提供している。このサービスを利用しているか。 【1. 使っている 2. 知っているが使っていない 3. 知らない】	選択	こまくるで提供するサービスのあり方検討の参考とする。
	計編	25 こまくるでは、パソコンやスマートフォンなどでバスの発車情報や遅延状況等が確認できるバスロケーションシステムのサービスを提供している。このサービスを利用しているか。 【1. 使っている 2. 知っているが使っていない 3. 知らない】	選択	こまくるで提供するサービスのあり方検討の参考とする。

■こまくるの利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	26 こまくるを利用して行きたい場所や施設はどこか。 【1. MEGA ドン・キホーテ UNY 小牧店 2. イオン小牧店 3. ラピオ 4. ピアール桃花台 5. 清水屋小牧店 6. 小牧パワーズ 7. 小牧市民病院 8. 小牧第一病院 9. 小牧ようてい記念病院 10. 小牧市役所 11. 鉄道駅（ ） 12. その他（ ）】	選択（2つ） ・記述	こまくるの運行見直し（ルート・バス停等）を検討する際の参考とする。
	計編	27 上記で回答したこまくるで行きたい場所や施設の利用頻度。 【1. ほぼ毎日 2. 週に数日 3. 週に1日 4. 月に数日 5. 年に数日】	選択	こまくるの運行見直し（運行本数等）を検討する際の参考とする。
	計編	28 上記で回答したこまくるで行きたい場所や施設の現在の交通手段。 【1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・原付 4. 自家用車（自走） 5. 自家用車（送迎） 6. こまくる 7. 民間路線バス 8. 鉄道 9. タクシー 10. その他（ ）】	選択・記述	こまくるの運行見直しにおける効果を検討する際の参考とする。

■小牧市の公共交通の維持・活性化について

新規	利用	項目案		回答方式	調査のねらい
新	計	29	<p>名鉄バス間内岩倉線は、これまで様々な利用促進策を講じてきたが、利用者数が伸び悩んでいる。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 現在の運行水準を維持すべき 2. 利用実態に応じて路線短縮や減便をやむを得ない 3. 路線を廃止し、他のサービスを導入すべき 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	名鉄バス間内岩倉線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	30	<p>ピーチバスは、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持すべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便をやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	ピーチバスの維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	31	<p>近距離高速バス桃花台線は、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持すべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便をやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	近距離高速バス桃花台線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計編	32	<p>近年、新技術を利用した自動運転バスやAI デマンド交通、さらにシェアサイクル、シェア電動キックボード、MaaS等のモビリティサービスが普及してきている。小牧市での導入についてどう思うか。（項目毎に評価）</p> <p>【1. 導入されたら利用する 2. 導入されても利用しない】</p> <p>①自動運転 ②AI デマンド交通 ③シェアサイクル ④シェア電動キックボード ⑤M a a S</p>	選択	新モビリティ（自動運転、デマンド、シェアサービス等）の利用意向を確認し、施策展開の参考とする。

■自由意見

新規	比較	項目案		回答方式	調査のねらい
	計編	33	小牧市内の公共交通の利便性を高めるアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。

5. 高速バス利用者アンケート

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■回答者の属性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計編	1 性別 【1. 男性 2. 女性 3. その他】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計編	2 年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85歳以上】	選択	
新	計編	3 職業 【1. 勤め人（会社員、公務員、会社役員等） 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生 6. 無職 7. その他（ ）】	選択・記述	
	計編	4 お住まいの地区（校区 or 6地区） <市内> 【1. 小牧 2. 小牧南 3. 味岡 4. 北里 5. 一色 6. 小牧原 7. 桃ヶ丘 8. 光ヶ丘 9. 村中 10. 三ツ淵 11. 篠岡 12. 米野 13. 小木 14. 本庄 15. 陶 16. 大城 17. わからない場合町名 （ ）】 <市外> 【18. 犬山市 19. 春日井市 20. 岩倉市 21. 豊山町 22. 名古屋市 23. その他（ ）】	選択・記述	
新	計編	5 普段の外出の頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週2～4回程度 3. 週1回程度 4. 2週間に1回程度 5. 月1回程度 6. 年に数回程度】	選択	
新	計編	6 自家用車の利用頻度（送迎も含む） 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～4回 3. 週に1回 4. 2週間に1回 5. 月に1回 6. 年に数回 7. 利用していない】	選択	

■当日のバス利用について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	7 利用バス路線 【1. 名古屋方面 2. 可児方面 3. 長野・山梨方面 5. 東京方面】	選択	中央道桃花台バス停及び近距離高速バス・高速バスの利用状況を把握する。
	計	8 バスに乗車した日時 【11月（ ）日 午前・午後（ ）時頃】	記述	
	計	9 乗車したバス停・降車したバス停 【乗車：（ ）バス停 降車：（ ）バス停】	記述	
	計	10 最終目的地の施設名または市町村名 【1. 小牧市内の施設名（ ） 2. 犬山市 3. 春日井市 4. 岩倉市 5. 豊山町 6. 名古屋市 7. （ ）県（ ）市・町・村】	選択・記述	
	計	11 利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 飲食・娯楽 6. 業務 7. 帰宅 8. その他（ ）】	選択・記述	
	計	12 乗り継ぎ 【1. 乗り継ぎしない 2. 鉄道（ ）線 3. バス（ ）線 4. その他（ ）】	選択・記述	

	計	13	利用頻度 【1. 毎日 2. 主に平日 3. 主に土日祝 4. 週に2～3日程度 5. 週に1日程度 6. 月に数日程度】	選択	
	計	14	「行き」「帰り」と往復で同じ交通機関を利用したか。 【1. 行きのみ利用 2. 帰りのみ利用 3. 往復で利用した】	選択	
	計	15	中央道桃花台バス停への手段または中央道桃花台バス停からの手段 【1. 路線バス 2. こまくる 3. タクシー 4. 自家用車（自分で運転） 5. 自家用車（送迎） 6. 原付・バイク 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他（ ）】	選択	中央道桃花台バス停へのアクセス状況及び中央道桃花台バス停からのイグレス状況を把握する。

■高速バスの満足度・改善事項について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい	
新	計	16	高速バスの項目別満足度（項目毎に評価） 【1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満】 高速バスの項目別重要度（項目毎に評価、総合的な満足度は除く） 【1. 特に重要 2. 重要 3. 普通 4. それほど重要でない 5. 重要でない】 ①高速バスの運行本数 ②高速バスの運行時間帯 ③自宅等からバス停まで（またはバス停から目的地まで）の利便性 ④乗り継ぎの利便性（こまき巡回バスまたは路線バスの乗り継ぎ） ⑤中央道桃花台バス停の待合環境 ⑥ルートやダイヤの情報提供 ⑦中央道桃花台バス停前ロータリー ⑧パークアンドライド駐車場（コインパーキング）	選択	項目別満足度及び重要度を把握し、改善すべき事項を抽出する。回答結果を参考に改善策を検討する。

■こまくるの今後の方向性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい	
新	計編	17	令和2年12月に実施した再編により、長大路線を廃止したことで、各路線の運行時間が短くなり、定時性も向上した。しかし、目的地によっては乗り継ぎが必要になった。現在の運行についてどう思うか。 【1. 所要時間が長く、運行本数が少なくても、主要な施設（小牧駅、市民病院等）へ乗り継ぎなしで行きたい 2. 乗り継ぎがあっても、現在の運行本数を維持し、所要時間が短い方がいい】	選択	路線再編の方向性検討の参考とする。
新	計編	18	こまくるを利用して行きたい場所や施設はどこか。 【1. MEGA ドン・キホーテ UNY 小牧店 2. イオン小牧店 3. ラピオ 4. ピアール桃花台 5. 清水屋小牧店 6. 小牧パワーズ 7. 小牧市民病院 8. 小牧第一病院 9. 小牧ようてい記念病院 10. 小牧市役所 11. 鉄道駅（ ） 12. その他（ ）】	選択・記述	ルート、バス停位置検討の参考とする。
新	計編	19	こまくるの運行のための小牧市の負担額は、令和4年度は3億4千万円となっているが、今後どのように考えるべきか。 【1. 市の負担額は下げる必要がある 2. 市の負担額は現状維持する必要がある 3. その他（ ）】	選択・記述	今後の費用負担のあり方検討の参考とする。
新	計編	20	こまくるの効率性を高めるために、どのような施策を実施すべきか。 【1. 利用者の少ない便を見直し、運行時間帯の縮小を図る 2. 利用者の少ない路線を見直し、バス運行台数の削減を図る 3. 利用者の少ないバス停を見直し、運行ルートの短縮を図る 4. その他（ ）】	選択・記述	こまくるの効率性向上（需要に応じたサービス水準設定）に向けた検討の参考とする。
	計編	21	65歳以上の高齢者は、こまくるの運賃が無料となっているが、無料対象年齢は何歳からが妥当か。 【1. 60歳 2. 65歳 3. 70歳 4. 75歳 5. 80歳 6. 85歳】	選択	運賃制度の改定の検討の参考とする。

■小牧市の公共交通の維持・活性化について

新規	利用	項目案		回答方式	調査のねらい
新	計	22	<p>名鉄バス間内岩倉線は、これまで様々な利用促進策を講じてきたが、利用者数が伸び悩んでいる。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 現在の運行水準を維持すべき 2. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 3. 路線を廃止し、他のサービスを導入すべき 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	名鉄バス間内岩倉線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	23	<p>ピーチバスは、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持すべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	ピーチバスの維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計	24	<p>近距離高速バス桃花台線は、近年、運行本数を減便している。どのように対処すべきだと思うか。</p> <p>【1. 運行本数を増やすべき 2. 現在の運行水準を維持すべき 3. 利用実態に応じて路線短縮や減便もやむを得ない 4. その他（ ）】</p>	選択・記述	近距離高速バス桃花台線の維持・活性化に向けた施策の方向性の参考とする。
新	計編	25	<p>近年、新技術を利用した自動運転バスやAI デマンド交通、さらにシェアサイクル、シェア電動キックボード、MaaS等のモビリティサービスが普及してきている。小牧市での導入についてどう思うか。（項目毎に評価）</p> <p>【1. 導入されたら利用する 2. 導入されても利用しない】</p> <p>①自動運転 ②AI デマンド交通 ③シェアサイクル ④シェア電動キックボード ⑤M a a S</p>	選択	新モビリティ（自動運転、デマンド、シェアサービス等）の利用意向を確認し、施策展開の参考とする。

■自由意見

新規	利用	項目案		回答方式	調査のねらい
新	計編	26	小牧市内の公共交通の利便性を高めるアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。

6-1. 企業アンケート

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■企業の基本情報について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	1 貴社名	記述	基礎情報として把握する。
	計	2 小牧市内の事業所の住所	記述	
	計	3 小牧市内の事業所の従業員数	記述	
	計	4 駐車場の駐車可能台数	記述	
	計	5 就業時間 【単一時間帯の場合 朝（ ）時（ ）分から夕（ ）時（ ）分まで 残業時間の最終は（ ）時（ ）分まで 交代制の場合 （ ）交代制、交代制の時間帯（ ）】	記述	通勤手段の運行時間帯の参考とする。
	計	6 担当者の情報 【所属（ ）連絡先（ ）役職（ ）氏名（ ）】	記述	今後、連絡を取るようになった場合の連絡先として確認する。
	計	7 従業員アンケートに協力してもよいか。 【1. 協力してもよい 2. 協力は難しい】	選択	従業員アンケートへの協力意向を確認する。

■従業員の通勤時の交通手段について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	8 従業員の通勤時の交通手段別人数 <鉄道・路線バス・こまくる・送迎バス・自家用車（送迎も含む）・社用車・タクシー・原付バイク・自転車・徒歩・その他> 【約（ ）人】	記述 (手段別)	通勤手段別の利用状況を把握する。
	計	9 通勤のために公共交通を利用する際に不便だと思う点 【1. 鉄道・バスの所要時間 2. 鉄道・バスの乗り継ぎ回数 3. 鉄道・バスの運行頻度 4. 鉄道・バスの運行時間帯 5. 自宅から駅までの交通手段 6. 駅から貴社までの交通手段 7. その他（ ）】	選択 (全て) ・記述	通勤手段に対する企業の意向や問題意識を把握する。
	計	10 貴社にとって望ましいと考えられる通勤手段 【1. 公共交通 2. 送迎バス 3. 自家用車（送迎も含む） 4. 社用車 5. 原付・バイク 6. 自転車 7. 徒歩 理由：（ ）】	選択・記述	
	計	11 具体的な通勤対策を実行しているか 【1. 特になし 2. 送迎バス 3. 時差通勤 4. フレックスタイム（自由時間勤務制） 5. 公共交通利用促進（ ） 6. その他（ ）】	選択・記述	通勤対策の現状を把握する。
	計	12 (※11で「送迎バス」を選んだ企業のみ) 送迎バスの運行区間 【（ ）～（ ）】	記述	送迎バスの運行区間を把握することで、今後の新たな需要を発掘する。
	計	13 通勤手段として公共交通利用を促進することに貴社としてメリットを感じるか 【1. 大いに感じる 2. どちらともいえない 3. ほとんど感じない】	選択・記述	公共交通利用の促進に対する企業の意向や取り組む上での課題を抽出する。
	計編	14 小牧市内の公共交通を通勤に利用する上での課題やアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。

6-2. 従業員アンケート

新規 現計画策定時または再編時の設問：空欄、新規設問：新

利用 計画策定とこまくる再編の両方に参照する設問：計編、計画策定に参照する設問：計、こまくる再編に参照する設問：編

■回答者の属性について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	1 会社名	記述	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
	計	2 性別 【1. 男性 2. 女性 3. その他】	選択	
	計	3 年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85歳以上】	選択	
	計	4 お住まいの地域 【1. 小牧市 2. 名古屋市 3. 春日井市 4. 岩倉市 5. 犬山市 6. 江南市 7. 一宮市 8. 北名古屋市 9. 豊山町 10. 大口町 11. 県内（市町村） 12. 県外（市町村）】	選択・記述	

■通勤状況について

新規	利用	項目案	回答方式	調査のねらい
	計	5 通勤手段 【1. 鉄道 2. 路線バス 3. こまくる 4. 送迎バス 5. タクシー 6. 自家用車（自分で運転） 7. 自家用車（送迎） 8. 原付・バイク 9. 自転車 10. 徒歩 11. その他（ ）】	選択・記述 （全て）	通勤手段の利用状況を把握する。
	計	6 （※自家用車（送迎も含む）・原付・バイクでの通勤者のみ） 公共交通で通勤するための条件 【1. 鉄道（ ）線（ ）駅の始発時刻が早くなれば→（ ）時（ ）分 2. 鉄道（ ）線（ ）駅の終発時刻が遅くなれば→（ ）時（ ）分 3. 鉄道（ ）線（ ）駅の運行本数が増えれば→（ ）分間隔 4. バス（ ）バス停の始発時刻が早くなれば→（ ）時（ ）分 5. バス（ ）バス停の終発時刻が遅くなれば→（ ）時（ ）分 6. バス（ ）バス停の運行本数が増えれば→（ ）分間隔 7. 駅から会社までのシャトルバスが運行されれば→（ ）駅～会社 8. 車内が混雑していなければ 9. 乗り継ぎが便利になれば 10. 駅やバス停から会社までの交通が便利になれば 11. トイレや待合環境などが改善されれば 12. 駅前に駐車場があれば 13. 時刻表やルート案内、乗り継ぎ案内などの情報があれば 14. 通勤手当の仕組みが変われば 15. 就業時間が変われば 16. その他（ ）】	選択 （全て） ・記述	通勤時に公共交通を使わない従業員の公共交通への転換の条件と公共交通への利用転換の可能性を確認し、新規利用者の需要推計の参考とする。
	計	7 （※自家用車（送迎も含む）・原付・バイクでの通勤者のみ） 改善されれば、通勤に公共交通を利用するか。 【1. 利用する 2. たぶん利用する 3. 利用しない】	選択	
	計編	8 小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデア	自由回答	小牧市内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。